

お茶の水女子大学での留学経験

お茶の水女子大学

CASBAS Perrine Michèle Jeanne Louise

k2590084

大学間交換留学制度の一環として、私は日本のお茶の水女子大学で学ぶ機会を得ました。この留学は 2025 年 9 月から 2026 年 8 月までの 1 年間にわたり、新しい学習環境と異なる文化に触れることができた大変貴重な経験となりました。本報告書では、この 1 年間の留学生活について、学業面および私生活の両面から振り返ります。

私は 2025 年 9 月に東京へ到着し、そのまま大学の学生寮へ入寮しました。寮は大学の敷地内にあり、池袋にも近く、東京で生活するには非常に便利な場所にあります。しかし、15 時間にも及ぶ長時間のフライトによる疲労に加え、日本語能力がまだ十分ではなかったため、入寮手続きはとても大変でした。それでも、音羽館の管理員の皆様はとても親切で辛抱強く対応してくださり、私が内容をきちんと理解できるよう最後まで丁寧にサポートしてくださいました。

また、履修登録の仕組みを理解することにも苦労しました。大学から割り当てられたバディや、交換留学生担当の事務職員の皆様が親身になって助けてくださったおかげで、無事に履修登録を行うことができました。私は情報科学を専攻しており、日本語で専門科目を受講することが難しかったため、選択できる授業は限られていましたが、それでも授業は非常に充実していました。



特に日本語の先生方は皆、親切で忍耐強く、学生一人ひとりに丁寧に向き合ってくださいました。平野先生は、茶道体験や浅草行きの上水バスなど、日本文化に触れる機会をたくさん提供してくださいました。また、オーベール・加藤先生は私たちが研究室に迎え入れてくださり、そのおかげで他の学生との交流を深め、地球の反対側で新しい友人を作ることができました。

留学生活の最初の数日間、とても不思議な感覚でした。日本にいるという実感がなかなか湧かなかったことを覚えています。大学は非常に便利な場所にあり、東京の主要な観光地はほとんど 2 時間以内で訪れることができます。そのため、最初の数週間は友人のエムナと一緒に東京中を観光しました。浅草では着物をレンタルし、日本らしい雰囲気を楽しみました。また、Nat Lab で知り合った友人の木村さんと一緒に、渋谷で開催された『HUNTER×HUNTER』新刊発売記念イベントにも参加しました。



私は東京だけでなく、日本各地を旅行する機会にも恵まれました。2月にはエムナと一緒に北海道を訪れ、さっぽろ雪まつりを見学しました。これは留学生活の中でも特に印象深い思い出の一つです。それまで私は、あれほど大量の雪を見たことがありませんでした。街中が雪に包まれ、歩道はまるで雪を掘って作られた通路のようでした。雪まつりは3つの会場で開催され、それぞれの会場には市民やプロの制作者による雪像や氷像が数多く展示されており、とても感動しました。



この1年間の留学経験は、私を大きく成長させてくれました。以前よりも自立心が身につき、自ら積極的に行動できるようになり、初対面の人とも自然に交流できるようになりました。大学で専門知識を学んだだけでなく、日本文化を深く知り、世界各国の学生と友情を築き、自分自身の殻を破ることができました。この留学で得た経験と思い出は、これからの人生においてもかけがえのない財産になると確信しています。